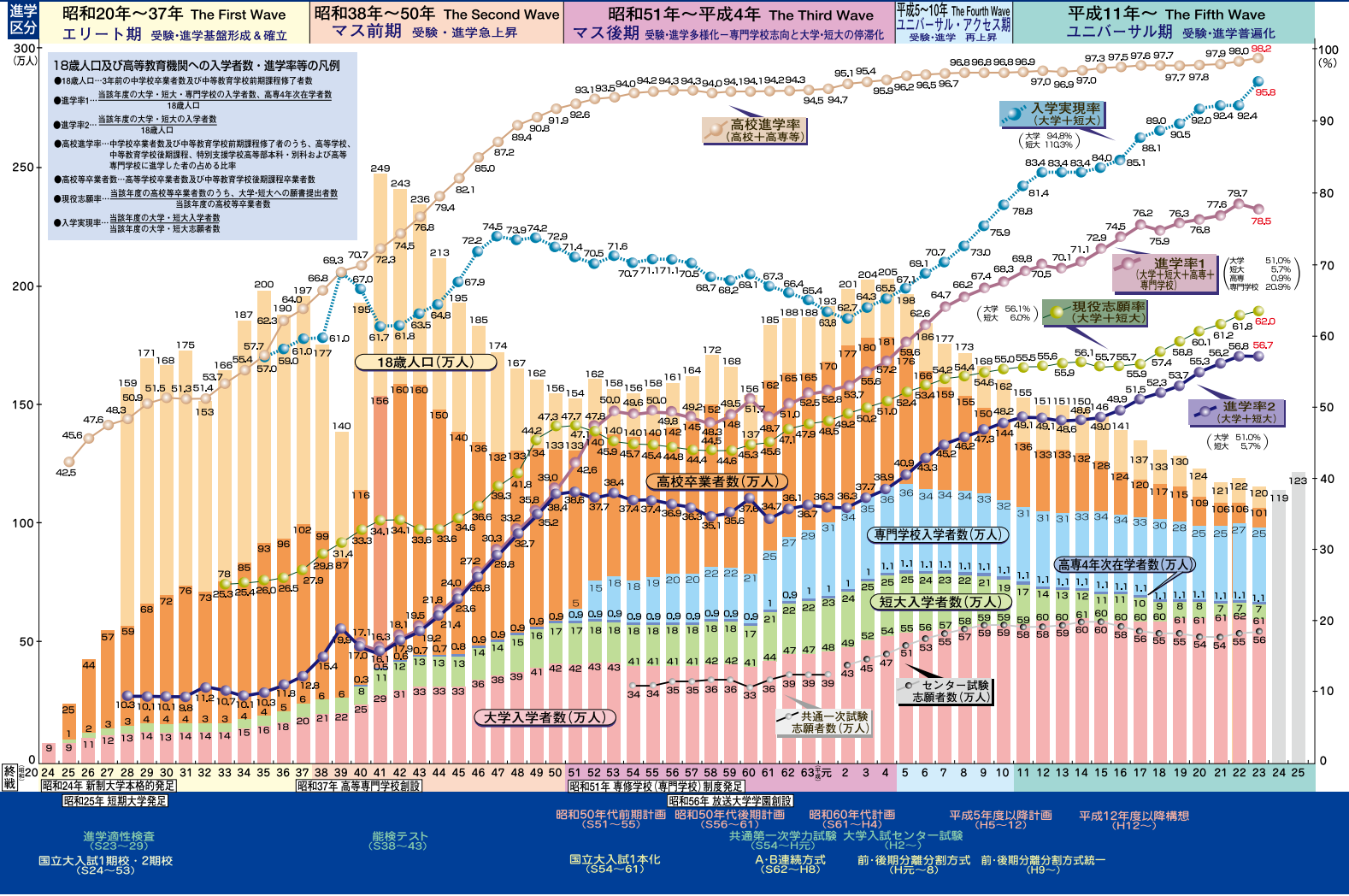


大学受験・進学60年史プロフィール

—エリートからマス、ユニバーサル期への激動の軌跡—

【お知らせ】
東日本大震災の影響により、平成23年度「学校基本調査」速報では大学・短大・高専を除き、岩手県・宮城県・福島県の値が除外されています。
最終的な確定値につきましては、平成24年2月に公開（予定）までお待ちください。なお、暫定値につきましては赤字で示しています。



大学受験と進学に発想の転換

学びと自己実現ができる「卓越する教育力と研究力」の大学選定を

「大学受験・進学60年史プロフィール」に見るように、我が国の大学・短大進学率は現時点で五十六・七%（大学・短大・高専・専門学校では七十八・五%）に

達し、その入学実現率も九十五・八%になっていきます。このような大学・短大への進学水準をアメリカの高等教育研究者マリーチンピットロウのモデルを

参考として、我が国の高等教育は、「ユニバーサル・アクセス型」に段階に突入していることがわかります。半世紀前の昭和30年当時、大学・短大進

学率はわずか十%台、加えて入学実現率は五十%台といった一部特定階層の厳しい競争でありました。しかし、この特定進学者層中心のエリート期から始まった大学受験・進学も、その後の進学率のアップや多様化により、マス前期、マス後期、ユニバーサル・アクセス期を経て、今やユニバーサル期へと右肩上がりの上昇を

（財）日本生涯学習総合研究所 元理事長 代田 恭之

率はずか十%台、加えて入学実現率は五十%台といった一部特定階層の厳しい競争でありました。しかし、この特定進学者層中心のエリート期から始まった大学受験・進学も、その後の進学率のアップや多様化により、マス前期、マス後期、ユニバーサル・アクセス期を経て、今やユニバーサル期へと右肩上がりの上昇を

規格化された勉強志向が根強く働いている点です。

このような状況下、大学進学は今こそ新たな知識基盤社会のグローバル化やユニバーサル化・生涯学習化等の環境変化に対応し、過去の負の遺産ともいふべき、合格のための受験から脱皮し、より創造的な学びのための進学にシフト転換をすべきです。要は単なる入り口のための偏差値受験ではなく、将来を見通した生きる力としての付加価値進学への発想転換であります。

要は、自己実現あるいは人間力戦略としての**学び**が、今後の重要な進学のキーワードとなることは自明の理です。そのためにもグローバル・スタンダード（世界基準）を大学選びの第一のプライオリティー（優先順位）とし、創造的な学びを支援する教育力と研究力に卓越した大学を選定し、挑戦していただきたいと思えます。

（注）マリーチンピットロウによる「高等教育システムの移行段階」モデルでは、当該年齢人口に占める大学在籍率が十五%未満を「エリート型」、十五%以上五十%未満を「マス型」、五十%以上を「ユニバーサル型」としていますが、ここでは進学率・合格率等の、我が国独自のデータから分析し5段階に区分しました。